

立教大学コミュニティ福祉研究所学術研究推進資金
大学院生研究 2025年度研究成果報告書

研究科名	コミュニティ福祉学研究科	
指導教員	所属・職名	氏 名
	コミュニティ政策学科・教授	武者忠彦
研究課題名	山梨県清里高原におけるペンション立地にともなう人口移動―都市農村関係論の視点から	
研究代表者	在籍研究科・専攻・学年	氏 名
	コミュニティ福祉学研究科・コミュニティ福祉学専攻・2年	東 大陽
研究期間	2025年度	
研究経費	(支出金額) 199,912円／(採択金額) 200,000円	

研究の概要 (200～300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

山梨県清里高原のペンション地の形成を変容は、経営者のライフコースから説明できる。本研究で得られた知見は以下にまとめられる。まず、初期の経営者は、戦後に確立された従業員としてのライフコースから離脱した人々であった。次第に経営者たちは、差別化を図るため多様な建築様式のペンションを建てたことで、地域の空間は大きく変化した。その後の継続した経営には、早期の開業が重要であり、現在では経営者の高齢化が進む一方で、新規参入者によるストック活用や複合経営もみられる。こうした、かつての都市住民が残した建物が現在の地域や行政にとって重い負担となっている現状は、今後の農山村再生を考えるうえで重要である。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

〔ペンション〕 〔ライフコース〕 〔移住〕

研究成果の概要 (600～800字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

山梨県清里高原におけるペンション地の形成とその後の変容は、「ペンション経営者のライフコース」から説明できる。ペンション経営者のライフコースは、単に個々のペンションが立地しただけでなく、清里高原の空間の変化に作用していた。本研究で得られた知見は大きく4点である。第一に、ペンション地の形成期においてペンション経営者としてのライフコースを歩む選択をする彼らに共通する点は、1970年代にかけて大都市圏を中心に確立されていた戦後日本型ライフコースというメインストリームから様々な事情で降りたことである。第二に、清里高原の空間はペンション地が形成によって大きく変化した。その変化には、他のペンションとの差別化を図る個々のペンション経営の戦略によって多様な建築様式のペンションの建設が相次いだことに起因していた。第三に、ペンション経営者のライフコースを歩む上で重要となるのは、早期に開業することであった。第四に、現在では経営者の高齢化によって経営スタイルが変化しているとともに、新たな経営者の流入によって複合経営や空き家化したペンションの利活用を行う事例がみられている。

清里駅周辺に広がる空き家化したペンションの多くは、当時の都市住民によって建設されたものである。こうした空き家化したペンション等の建築物への対応は、まちづくりに関わる地域住民や行政にとって大きな負担となっている。これまでのリゾート開発に関する研究では大きな資本による農山村地域への影響は指摘されてきたが、本研究のような小さな資本や時代性を持つ産業集積もまた地域に大きな影響を与えていることは今後の農山村地域の再生を考えるうえで重要な指摘となるだろう。

※ この（様式2）に記入の成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書（A4縦型横書き1枚・自由様式）を添付すること。

研究発表（研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。

該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。）

- ①雑誌論文（著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ）
- ②図書（著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数）
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催（会名、開催日、開催場所）
- ④その他（学会発表、研究報告書の印刷等）

なし。

※(様式4)

立教コミ福一院生一報告

研究成果の詳細

＜申請当初の計画・目的の達成度（優れた成果があがった点や問題点など）＞

本研究は、修士論文として取り組んだものである。ペンションの集積を経営者のキャリアや家族、社会経済の変化、地域の変容など様々な視点を踏まえたライフコースから考察することで、これまで「脱サラした都市住民」と表現されてきたペンション経営者像に対して、本研究では脱サラまでの過程を明らかにした。その結果、55歳定年制に対する考えや従事していた職業の斜陽産業化といった具体的な要因の発見に加え、それらが共通の要因として経営者のライフコースに刻印されていることを明らかにした。さらに、開業時期によってその動機が徐々に変化していったことで、1980年代には経済的利益を強く求めた経営者が流入し一気にペンション地が形成され、一気に衰退したことを明らかにした。近年では、空き家化したペンションを購入しペンションを軸とした複合経営を行う経営者も流入している。彼らのライフコースにも共通する要素をもっている。彼らへのチョスアから時代の変化とともにペンション経営やペンション地としての清里高原も変化していることを明らかにすることができた。

一方で、ライフコースを鍵概念としつつもペンション開業後の生活については具体的に調査をすることができていない。時代の変化を個々の経営者がどのように対応したのかを考察することは、ペンション地がどのようにして現在まで至ったのかを明らかにすることにつながると考えている。今後も継続して調査をしていきたい。

＜研究期間終了後の展望＞

卒業論文の執筆と比較して、一連の研究プロセスのなかで自分自身が成長した点とまだまだ訓練が必要な点が明瞭になった。また、本研究においてもいくつか積み残した課題がある。今後は、博士課程後期課程に進学し研究を引き続き行いたい。

＜その他（本資金制度等について、ご意見・ご要望等がありましたらご記入下さい）＞

※ この（様式４）は、研究評価のために使用するものであり、公表はしません。